

# 花ちゃん、オー君、モンタ博士、フツ博士のくわくわくドドド立ててくさ

国立市立国立第七小学校

平成29年7月7日 NO.34 (434)

オー君 「モンタ<sup>はかせ</sup>博士！きのう、大切<sup>たいせつ</sup>なことをい<sup>い</sup>わす<sup>わす</sup>れていたと言<sup>い</sup>いましたが、どんなことなのですか。」

花ちゃん 「そうです。わたしも気<sup>き</sup>になっていました。」

オー君 「昔<sup>むかし</sup>の暦<sup>こよみ</sup>のこととか言<sup>い</sup>ってましたね。」



## こよみ 暦



モンタ博士「そのとおり。暦<sup>こよみ</sup>というものには、昔<sup>むかし</sup>の暦<sup>こよみ</sup>と今<sup>いま</sup>の暦<sup>こよみ</sup>があるんだよ。例<sup>たと</sup>えば、お正月<sup>しょうがつ</sup>など、まだ冬<sup>ふゆ</sup>なのに『春<sup>はる</sup>』という言<sup>こと</sup>ば<sup>ば</sup>をつか<sup>つか</sup>ったりするだろう。」

花ちゃん 「そうですね。年賀状<sup>ねんがじょう</sup>とか、あちこち目<sup>め</sup>にしますね。」

モンタ博士「それから、3月3日は、桃<sup>もも</sup>の節句<sup>せっきう</sup>だけど、まだ寒<sup>さむ</sup>くて『桃<sup>もも</sup>』の花<sup>はな</sup>なんて咲<sup>さ</sup>いてないよね。これって、おかしいと思<sup>おも</sup>わないかい。」

花ちゃん 「そういえば、そうですね。でも、それと7月7日の七夕<sup>たなばた</sup>とどうい<sup>かんけい</sup>う関係<sup>かんけい</sup>があるのですか。」

モンタ博士「つまり、昔<sup>むかし</sup>の暦<sup>こよみ</sup>と今<sup>いま</sup>の暦<sup>こよみ</sup>では、ちが<sup>ちが</sup>いがあるとい<sup>ほんとう</sup>うことで、本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>の七夕<sup>たなばた</sup>は、7月7日ではないんだ。七夕<sup>たなばた</sup>はもともと昔<sup>むかし</sup>の暦<sup>こよみ</sup>、これを『旧<sup>きゅう</sup>暦<sup>れき</sup>』とい<sup>げつ</sup>うけど、1か月<sup>げつ</sup>くらいずれていて、本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>は8月なんだ。『旧<sup>きゅう</sup>暦<sup>れき</sup>』に對<sup>たい</sup>して、今<sup>いま</sup>使<sup>つか</sup>われている暦<sup>こよみ</sup>を『新<sup>しん</sup>暦<sup>れき</sup>』ともい<sup>つ</sup>うけど、梅<sup>つ</sup>雨<sup>ゆ</sup>空<sup>そら</sup>で星<sup>ほし</sup>に願<sup>ねが</sup>い事<sup>こと</sup>ができなくとも大<sup>だい</sup>丈<sup>じょう</sup>夫<sup>ぶ</sup>。まだチャン<sup>たいじょうぶ</sup>スはあるとい<sup>こと</sup>うことさ。」

オー君 「何だかむずかしくなってきたな。もう少しわかりやすく教えてください。」

モンタ博士 「まず、昔の暦というのは、明治5年まで使われていた『太陰太陽暦』のこと。今の暦は、太陽の動きをもとに決められているけど、この『太陰太陽暦』は、主に月の動きで決められていたんだよ。」

花ちゃん 「それでは、本当の七夕はいつなんですか。」

モンタ博士 「それはいい質問だね。今年、つまり2017年の旧暦の七夕はいつかという  
と・・・、それは、8月28日です。正確な数え方を説明するのは長くなってしまっ  
てしまってむずかしいからやめておくけど、今年の七夕は、お盆をずっと過ぎて夏休  
みも終わりの8月28日ということなんだ。」

オー君 「へえー。そうなんだ。毎年、8月28日が七夕ということですか。」

モンタ博士 「ところがどっこい、そうではないんだ。毎年ちがうんだ。」

オー君 「え！毎年、本当の七夕はちがう日なんですか。」

モンタ博士 「そのとおり。下にこれから数年の本当の七夕の日をまとめておこう。」

2017年→8月28日

2018年→8月17日

2019年→8月7日

2020年→8月25日

2021年→8月14日

### 昔は1年は13か月の時もあったのは、なぜ？

日本の旧暦は太陰太陽暦。太陰太陽暦とは、太陰暦をベースにして太陽暦の要素を取り入れたもの。太陰暦は、月の満ち欠けにあわせて、暦月の1ヶ月を約29.53日として、1年を約354.367日としています。季節の移り変わりは太陽の周期によるので1年約365.242日のため、太陰暦をそのまま使うと、1年につき約11日、3年で約33日（約1ヶ月分）、暦と季節がずれてしまいます。そこで、考えたのが、3年に約1回、19年に7回、閏月をいれることで、暦と季節のずれを調整したものが太陰太陽暦です。2月は普通28日までですが、4年に1回は2月を1日増やして29日までとするのによく似ています。